総合計画は羅針盤

安平町では、未来創生委員会など様々な町民参画の機会をつくり、多くの町民の声や意見を活用してまちづくりを進めるため「SWOT（スウォット）分析」を行い、総合計画として目指すべきまちづくりの方向性を“まちづくりの将来像”として定めました。総合計画は、町民と行政が力を合わせてまちづくりを進めるための羅針盤となりました。

未来に駆けるまちの想い

都会に比べて、多くの町民がまちづくりに関わりを持っている安平町。

特に、世界で活躍するスポーツ選手を多数輩出する伝統を持つ当町では、
未来を担う子どもの可能性と希望をみんなで応援しようという歴史が長年受け継がれ、
地域の大人が先生、まちが1つの学校・家族となり、
体験活動や文化・スポーツなど様々な場面で子育てや教育が支えられています。
これが最も優れた“あびらの強み”です。

地域の支えにより育てられた子ども達は、やがて立派な若者へと成長し、
自分の可能性を信じて、外の世界へと羽ばたいていきますが、
泥だらけになって遊んだ子どもの頃の記憶、心温まる人情深い地域の人たちとのふれあいは、
忘れられない情景として心に刻まれ、
たとえ離れて暮らしていてもふるさとを思う気持ちを呼び起こすでしょう。

地域全体で子どもを育てるという“あびらの強み”を更に伸ばすことは、子ども達に楽しい体験を与え、このまちに住む子育て世代に安心感をもたらし、子どもとのふれあいを通じて高齢者の生きがいを高め、このまちに暮らし続けたいと思う気持ちへとつながり、同時に、都会に住む若者や子育て世代からも共感を生み、あの町で暮らしたい、あの町で子どもを産み育てたいという“選ばれるまち”へと結びつくでしょう。

『将来にわたって子どもの声が地域に響き、若者・子育て世代で賑わうまち』を目指し、
最も優れた“あびらの強み”を活かして、あらゆる世代の人たちができる範囲でまちづくりに関わりながら、
“みんなでこのまちの未来を創る”“未来に向かって駆けて行く”そんな姿をイメージし、
まちづくりの将来像を定めました。

「育てたい 暮らしたい 帰りたい
みんなで未来へ駆けるまち」

“想い”から“行動”へ

第2次安平町総合計画
～願いを叶えるためのアクションプラン～

第2次安平町総合計画を策定するなかで基本構想として将来像である願いが明確になり、その実現を図るための基本となる計画が定められました。

計画は「地域で子どもを産み育てる環境づくり」など子育て・教育分野、「地域コミュニティ活動の活性化」などひとづくり・コミュニティ分野、「持続可能な農林業の振興」など経済産業分野、「町民との連携・協働による健康づくり」など健康福祉分野、「職住近接を目指した移住・定住対策」など生活環境・生活基盤分野、「情報共有と知名度向上につながる発信力強化」など行財政分野の6つの政策分野で構成されています。

なかでも「最も優れたまちの強み」を持つ、優先すべき政策分野である「子育て・教育」を重点とし、次に子育て・教育分野の成長により、その効果が発揮される政策分野となる「移住・定住など関連する分野」を中心にし、施策展開が図られます。

現在、安平町は、第2次安平町総合計画の最終段階となる後期基本計画によるまちづくりを行っています。後期基本計画は、北海道胆振東部地震を機に策定した「安平町復興まちづくり計画」や、新しい社会実現に向けた全世界の目標「SDGs」を反映しました。新たな視点と施策を取り入れた『第2次安平町総合計画』実現に向けたラストスパートを駆けています。

安平町公式HP
行政組織・議会